

2021

■ With Corona

体験型講座・特別鑑賞会

こんなことができます！



特別鑑賞会(17C「黒織部茶碗」公開)

多治見市美濃焼ミュージアム

多治見市東町 1-9-27

TEL:0572(23)1191

FAX:0572(23)4538

e-mail: minoyaki@tajimi-bunka.or.jp

With Corona・・・こんな時代

だからできない

のではなく

渾身の力を込めて

だからできる

「本物体験企画」をご提案いたします



体験型講座 美濃焼ワークショップ

No, 1「器をつくる」～ボールでボール～

★球技のボールを型にして、使える器をつくります

《写真:小学校6年生の製作》

※球技用ボールに粘土を張り付け、板で叩いて成形するところ



体験型講座 美濃焼ワークショップ

No, 2「今、この時を刻む」～粘土を握りしめて～

★粘土の塊を“今、この時”を心に抱いて握りしめて(5秒)完成

《写真:中学校1年生の制作》

※作品を台の上に乗せ、最後の仕上げを思案しているところ(45秒)



特別講座 美濃焼特別鑑賞会

No, 1「特別鑑賞会」

～眼前360°まるごと鑑賞～

★本物の器をお茶室で間近に鑑賞

➔静止鑑賞ではなく動的鑑賞

《写真:黒織部茶碗(17C)の鑑賞風景》

※この後作品に近づき、至近距離で鑑賞

■開催日:毎月第二土曜日(別日開催も可能です。ご相談ください)

★当館へ直接、「事前申し込み」願います！(個別に内容・期日の相談をいたします)

1 参加者名・人数

※親子体験は高校生以下の数を教えてください

高校生以下のみなさんには、陶製メダルを授与します

2 希望コース(ワークショップ or 特別鑑賞会・そしてコース No)

3 希望日時 4 連絡先

【担当】岩城、岩井(館長)

■ 電話:0572(23)1191

■ FAX:0572(23)4538

■ e-mail: minoyaki@tajimi-bunka.or.jp

QRコード



美濃焼ワークショップ

■ WITH CORONA 体験型講座ラインナップ (1グループの上限、活動時間、費用)

【NO. 1】「器をつくる」～ボール で ボール ～ 《8名, 40分, 500円》

→小学校低学年のみなさんから楽しんでもらえます

※高校生以下半額!

★球技用のボールを型にして、使える器をつくる(粘土500g、制作時間30分、本焼焼成後手渡しで返却)

- ①両の掌で粘土を丸め、美しい球体(ダンゴ)をつくる
- ②ダンゴを粘土板に乗せ、せっかくつくったが、掌で叩いてつぶす ※逆説的快感にひたる
- ③叩き続け、厚さ1cm程度(均一)の同心円状の円盤(ホットケーキ)をつくる
- ④手回しろくろの上に球技用のボール(ドッジボールorハンドボール)を載せて固定する
- ⑤ボールの表面にラップをはり付ける(タオル・手ぬぐい等で代用してもOK)
- ⑥このボールにホットケーキを両の手ではり付け、板でたたいて美しい表面をつくる
- ⑦ボールごとひっくり返して、ボールを上へ抜き、完成!(ラップがはり付いているから崩れない)

【NO. 2】「今、この時を刻む」～粘土を握りしめて～ 《40名, 10分, 200円》

→制作時間 わずか60秒で完成です

※高校生以下半額!

★粘土の塊を“今、この時”を心に抱いて握りしめて(5秒)完成(粘土100g、制作時間1分、本焼き焼成)

- ①100gの粘土を丸める(10秒)
- ②掌で丸めた粘土を「ギュッ」と力を込めて握りしめる(5秒) ※ここがポイント!
- ③スタンプで自分の番号を印字、鉛筆でワンポイント装飾を施して完成!(45秒)

【NO. 3】「体+友=器」～自分の肘を型にして友とつくる～ 《8名, 30分, 300円》

→2人以上で実施します

※高校生以下半額!

★粘土を肘に押しあて、友に板でたたいてもらってつくる(粘土200g、制作時間20分、本焼き焼成)

- ①200gの粘土をやや平たくし、器状にする(厚くてよい)
- ②肘にラップをつけ、その上に粘土をはり付ける(服の上からはだめ、肉体の上で)
- ③友に板でたたいてもらい、厚さ・形を整えていく(厚さは自分で感じる・友との会話)
- ④肘から外して完成!「できたよ、ありがとう!」 ※友への感謝を忘れない!

【NO. 1】完成イメージ



【NO. 2】完成イメージ



【NO. 3】完成イメージ



美濃焼 特別鑑賞会

■ WITH CORONA 特別講座ラインナップ (1グループの上限、活動時間、費用)

事前申し込み必要

▶ Do not touch ! 手に触れない鑑賞 ※表紙写真 (鑑賞風景)

【No. 1】「特別鑑賞会」～眼前360° まるごと鑑賞～《5名, 30分, 500円》

⇒静止鑑賞 (通常の展示室) ではなく、動的鑑賞 (動く作品を鑑賞) ※高校生以下無料!

↓ 作品に触れることができない期間・触れない方がよい場合の鑑賞を想定

★お茶室で収蔵品 (本物) を鑑賞者の要望に応じて学芸員が提示する鑑賞会 (ファイル入り特製鑑賞資料)

- ①お茶室 (窓開放) に5名 (上限) 集合 ※「特製解説資料」を手にする
- ②椅子席に着座し、学芸員の作品解説 (3分) を聴く ※作品の基本情報を端的に
- ③四畳半の畳の近くに移動し (間隔をあける)、作品を目近にて鑑賞する ※露出鑑賞
- ④裏面、底面等、鑑賞したい場所を要望する ※手に触れない鑑賞
- ⑤椅子席に戻り、学芸員から作品の「館収蔵品物語」を聴き解散

▶ Touch the hand ! 手に触れる鑑賞

【No. 2】「特別鑑賞・呈茶会」～本物を手に触れる鑑賞と呈茶～《5名, 50分, 1000円》

⇒掌鑑賞 (両の手に抱いて鑑賞する) + 陶芸家の茶碗で喫茶体験 (抹茶) ※高校生以下半額!

↓ 作品に触れることが可能になった段階で実施 (両方の掌で鑑賞する茶碗を想定)

★お茶室で収蔵品 (本物) を学芸員の指導で手に取り鑑賞する (当館の呈茶《500円》付き)

- ①お茶室 (窓開放) に5名 (上限) 集合 ※「特製解説資料」を手にする
- ②椅子席に着座し、学芸員の作品解説 (3分) を聴く ※作品の基本情報を端的に
- ③四畳半の畳の上移动到し (間隔をあける)、作品を目近にて鑑賞する ※露出鑑賞
- ④学芸員の指導後、各自が順に作品を手に取り、鑑賞したい場所を鑑賞する ※鑑賞方法
- ⑤椅子席に戻り、当館の通常の呈茶 (美濃の陶芸家作茶碗) タイム ※呈茶茶碗の解説
- ⑥学芸員から鑑賞作品の「館収蔵品物語」を聴いて解散

【No. 1】鑑賞作品例「黒織部茶碗 (17C)」



【No. 2】手に触れる鑑賞イメージ (平成31年陶都中学校)



▶ Do not touch ! 手に触れない鑑賞

【No. 3】「特別鑑賞・まったり企画」～眼前360° まるごと鑑賞～

《8名, 20分, 500円》

↓ 作品に触れることができない期間・触れない方がよい場合の鑑賞を想定

★お茶室で収蔵品（本物）を鑑賞者の要望に応じて学芸員が提示する鑑賞会（根本焼で喫茶、お菓子、鑑賞資料）

- ①お茶室（窓開放）に8名（上限）集合 ※「特製解説資料」を手にする
- ②椅子席に着座し、学芸員の作品解説（3分）を聴く ※作品の基本情報を端的に
- ③四畳半の畳の上に移動し（間隔をあける）、本物作品を目近にて鑑賞する ※露出鑑賞
- ④裏面、底面等、鑑賞したい場所を要望する ※手に触れない鑑賞
- ⑤椅子席に戻り、しばしの喫茶タイムとする 《根本焼の湯呑、お菓子》
- ⑥学芸員から作品の「館収蔵品物語」を聴き終了

【桃山時代の本物の織部茶碗】

鑑賞作品例「黒織部茶碗（17C）」



【根本焼の器で喫茶】

明治時代 染付松竹梅文猪口（見込）



明治時代 染付松竹梅文猪口

【喫茶 お菓子】初衣



「根本焼」とは、現在の多治見市根本町で幕末から昭和中期にかけて、生産していたやきものです。高価な呉須を用い、手描きによる絵付けを施した染付磁器でその名が知られています。とくに明治時代中期頃から大正時代にかけての最盛期には、大勢が集まる冠婚葬祭などで用いられたもてなしの器として、美濃焼の中でも特色あるブランドを確立しました。

美濃焼 親子鑑賞会

■ WITH CORONA 親子で協力し課題を追究 (1グループの上限、活動時間、費用)

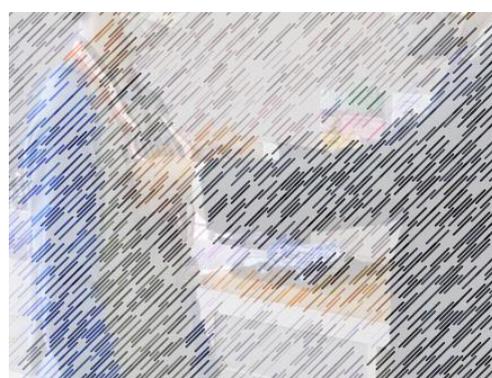
事前申し込み必要

【No. 1】 「親子鑑賞会」～親子で探検美濃焼 1300年～

《一回3家族まで、50分、子ども(小中学生・高校生)1名につき300円》

★親子で協力して「鑑賞シート」に示された作品を展示室の中で探します。

クリアするとお子さんへ館長から特製“陶製メダル”を授与します。



- ①当館 受付 ➡ ギャラリーM2「美濃焼1300年の流れ」展示室 入口集合
- ②《はじめの会》「鑑賞シート」をもらい(家族に1枚)、説明を聴く
- ③《鑑賞開始》「鑑賞シート」に示された作品を親子で協力しながらさがす
 - ➡カタチ・土はだ・もようの3点について、見つけたことをメモしながら展示室をめぐる(最後に行う発表で理由を語るができるように)
 - ➡作品を見つめることを第一として、微妙な違いにもこだわる
- ④《おわりの会》「鑑賞シート」の成果発表をする(親子で役割分担をしておく)



➡見つけた作品の前へ行き、学芸員へその作品を示し、理由を述べる

➡正解・不正解だけではなく、着眼点をいかに持つか、どこに着目するかを大切に振り返る

➡成果発表が終わったら、館長が総括し、子どもたちは“陶製メダル”を授与される